

## 千葉県地域コミュニティ活性化支援事業交流会議事録(案)

【日時】：平成26年2月7日(金)

11:00~11:30 花と緑で旭を元気にするサーフタウンプロジェクトの概要説明)  
11:30~12:30 津波避難タワー、飯岡海岸の現地視察  
12:30~13:30 食事(海辺里：復興丼) 復興焼酎(あさひの夢)の試飲付き  
14:00~16:30 地域交流会 防風林(防災林)づくりについて意見交換

【場所】：飯岡刑部岬展望館

【出席】：24名

千葉県環境生活部県民交流・文化課(副課長：西織、班長 浅野、主査：深山、副主査：大橋、主事：佐藤)

NPO法人千葉自然学校(事務局長：遠藤)

ちばのWA!東葛本舗(会長：関本)

多世代交流型コミュニティ事業[NPO法人テラス21副理事長：村田、柏市社会福祉協議会リーダー：高橋、地域支援課地域づくりコーディネーター：田中]

いいおか津波復興プロジェクト[NPO光と風理事長：渡邊、副理事長：船倉(千葉科学大学)、理事：平澤、理事：石井、監事：戸井、事務局(加藤、渡邊)、いいおか津波を語り継ぐ会(会長：仲條、副会長：高橋)、旭津波被災者支援の会(代表：平塚)]

オブザーバー[ReNaFo認定植生工学士：村田、NPO法人みどりのネットワーク千葉：斎藤、旭市議会議員：高橋、銚子市青年会議所：岩瀬]

【議題】：防風林づくりについて 14:00~16:30

- ・ 座長：村田から、千葉自然学校からのいいおか津波復興プロジェクト事業とのコラボレーションの可能性に関して提案があり、現地視察と地域間の交流会が実施することになった。参加者も多いし、円卓会議の趣旨にも適うので、自己紹介を一巡したいと挨拶があった。それに引き続き、いいおかPJ：船倉より、活動中の「花と緑で旭を元気にするサーフタウンプロジェクト」の紹介と、旭市の現状説明が資料に基づき説明があった。引き続き、意見交換に入った。
- ・ 小中高生の協力が大切だ。学校によって対応が様々ある。教育委員会の理解が不可欠であろう。
- ・ 子どものボランティア活動では安全(けがの恐れ)が大事だ。
- ・ 旭市の内陸の小中学生の中には津波が来たことを知らない子供がいる。津波について、話の仕方(怖がらせてはいけない)について配慮がいるだろう。
- ・ 「どんぐりの苗木」を育てて、防潮堤に植える。2~3年で1mになる。
- ・ 子ども自身や学校での管理は難しいが、家庭が協力すれば、実施できるのではないか。どれだけ市民が関わられるか、結果よりもプロセスが大切であり、成功へ導くだろう。
- ・ 「緑の銀行」がある。一口いくらかでお金を集め、行政が苗を用意し皆で植える活動である。
- ・ 植栽した後の管理は誰がやるのか。空中散在は止めるべきだ。
- ・ 松は葉が細く塩がついても落ちやすく、その点で防風林にふさわしいが、本来はその土地に自生している物を植える事が大切である。これを宮脇昭横浜国大名誉教授の「いのちを守る森の防潮堤」の考え方である。どんぐりの苗木の話につながる。
- ・ 植樹する苗を地元旭市だけで調達するのは難しいだろう。しかし地域を超えて助け合う、協力し合えば実現できるのではないか。
- ・ 公園の使い方について、公園の運営に市民が参加しよう。公園、防風林等は行政が作った後は住民が維持管理をしなければならたない。
- ・ 柏市では公園を農地として貸し出している。
- ・ 旭市の場合、ゴルフパークの遊歩道が、津波の後、活用されていず、荒廃している。
- ・ 地域住民だけでは無理である。円卓会議のような場があれば、地元も盛り上がらないか。飯岡の円卓会議と交流することから始めたらどうか。
- ・ 外部の人を巻き込んでいく事はきわめて重要だ。たとえば、観光客に植樹をしてもらうなどのアイデアがあるのではないか。
- ・ 色々問題はあがあるが、今、盛り上がった事からまずやってみる、先の事をあまり考え過ぎると何もできない。公募にて維持管理費は個人負担にして50%は公園、50%は個人の利益活動として利用する新しい試みもある。
- ・ 今後も、交流を続けることを確認して散会した。

以上

(記録：NPO光と風 事務局)